

# Prognostic Significance of Expression of the Epithelial-Mesenchymal Transition-Related Factor Brachyury in Intrathoracic Lymphatic Spread of Non-Small Cell Lung Cancer

島松, 晋一郎

<https://hdl.handle.net/2324/1866273>

---

出版情報：九州大学, 2017, 博士（医学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

氏 名：島松 晋一郎

論 文 名：Prognostic Significance of Expression of the Epithelial-Mesenchymal  
Transition-Related Factor Brachyury in Intrathoracic Lymphatic Spread  
of Non-Small Cell Lung Cancer  
(非小細胞肺癌の胸腔内リンパ節転移における上皮間葉移行関連因子  
Brachyury 遺伝子発現の意義 )

区 分：甲

### 論 文 内 容 の 要 旨

【背景】 Brachyury 遺伝子は、発生において上皮間葉転換（EMT）を介して重要な役割をする転写調節因子であり、ヒトの初期胚において中胚葉形成に必須であることが報告されている。我々は、非小細胞肺癌患者において、転移を認めた肺門および縦隔リンパ節の Brachyury 蛋白の発現の予後的意義を調べた。【方法】外科的に切除された原発性肺癌 115 例とその転移リンパ節における Brachyury 遺伝子の発現を免疫組織化学的染色により評価した。Brachyury 蛋白の発現と患者の臨床病理学的因子や予後との関係を分析した。【結果】転移リンパ節における Brachyury 蛋白の発現は、原発腫瘍よりも有意に高発現であった ( $p = 0.012$ )。転移リンパ節の Brachyury 蛋白が高発現の患者は、低発現の患者より有意に予後不良であった ( $p = 0.0236$ )。また、転移リンパ節と原発腫瘍の Brachyury 蛋白発現の差が大きい患者は、差が小さい患者より有意に予後不良であった ( $p = 0.0146$ )。転移性リンパ節における Brachyury 蛋白の発現は、EMT 関連因子と有意に相関を認めた (E-cadherin[負の相関]、 $p = 0.0265$ 、Slug[正の相関]、 $p = 0.029$ ； IL-8[正の相関]、 $p = 0.0135$ )。

【結論】胸腔内リンパ節中の転移性癌細胞における Brachyury 蛋白の高発現は、肺癌患者の予後不良と関連を認めた。Brachyury 遺伝子は、リンパ節転移の過程で高発現となり、さらなる転移や進展能を獲得する可能性が考えられた